



# 来てけれ! 能代市

能代市環境産業部  
農業振興課 農業水産係  
後藤 将司

## 素波里頭首工



世界自然遺産にも登録されている白神山地の源流水を粕毛川より導水し、能代山本地区2,994haの農地へ用水を供給しています。

## 秋田県能代地区土地改良区



秋田県能代地区土地改良区は能代北部土地改良区、東雲原土地改良区、能代市榊土地改良区と平成28年4月1日に合併し、総受益面積3,146haでスタートいたしました。今後も、組合員・地域社会のためにより貢献できる足腰の強い土地改良区を目指します。

## 小友沼



江戸時代初期の秋田藩主佐竹義宣公重臣梅津政景により築造され、2010年には農林水産省の「ため池百選」に選定されました。榊地域226haのかんがい用水として使用されていますが、多種多様の渡り鳥の休息地となっており観察会も行われています。

毎年8月上旬は七夕WEEKです!!

勇壮で華麗な祭りが、能代の夏の夜を彩ります。ぜひ、能代の夏祭りをお楽しみください。

## こども七夕(8/2)



アニメキャラクターなどを形どった数十台の小若灯籠が、子ども達の手で引かれ市内を練り歩きます。

## 能代七夕「天空の不夜城」(8/3.4)



江戸時代に運行されていた巨大灯籠を復活させた“嘉六(かろく)”(17.6m)、城郭型灯籠として日本一の高さを誇る“愛季(ちかすえ)”(24.1m)。迫力満点の2つの灯籠が市内を練り歩きます。

## 能代役七夕(市内運行 8/6)



千年以上の歴史を持ち、田楽、笛、太鼓のお囃子を先頭に、威勢の良い大勢の若者たちによって練り出される大若灯籠が市内を練り歩きます。翌日には、灯籠上部の“シャチ”に火を放ち、米代川に流します。

## 能代役七夕(シャチ流し 8/7)





## 維持管理の尊さと難しさ

大森土地改良区

赤 沼 聡



我が大森土地改良区は横手盆地の南西端、雄物川と出羽丘陵に挟まれた地域であり、昭和35年頃から近代農業を目指す機運が徐々に高まり、雄物川水系（一級河川）左岸の郷・矢神地区をかんがいしていた矢神堰と旧大森用水組合の合口堰を統廃合し、昭和44年から県営ほ場整備事業の30a区画と県営かんがい排水事業により大森揚水機700φ2基を設置して当時約260haのほ場に用水を供給してきました。また、同時期に国土交通省管轄の河川堤防の築立と「暴れ川」と称した上溝川や大納川・七滝川の河川改修を同時施工し、湿田地帯なため多大な労力を費やした農地は肥沃な水田地帯と変貌を遂げ、県南でも良質米の産地として世間に認められています。

現在は受益地の喪失により口径は小さくなったものの、独自取水している600φ2基の水中ポンプは河川に直結しているため、毎年1回は洪水により冠水する状況にありますし、その洪水がもたらす土砂が取水口の前を埋め尽くすため、国交省の許可を得ながら河川の掘削や土砂上げ等に苦慮しているところです。また、渇水となれば取水制限が掛かり、ポンプ弁の開度調整を余儀なくされる状態に頭を悩まされています。

その他の主要施設は、雄物川町と大森町に跨ぐ幹線水路約6kmと自然水利地区の二ノ堰導水路・三堰頭首工・七滝頭首工・上溝川第2頭首工等も維持管理しています。近年、多発する集中豪雨や渇水等において受益地を駆けずり廻る日々が続いていますが、先人より受け継がれてきた農地・施設等を守るため鋭意奮闘しています。



## 笑顔に感謝

男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区

夏井 まゆ子



水田の緑が美しい季節になりました。今年は降雪量が少なく、一ノ目潟ため池でも水不足が懸念されましたが、五月、六月の雨で今月は平年並みの水位まで回復し、ほっと胸をなでおろしております。

梅雨の晴れ間の六月二十九日。当土地改良区では、平成十六年度より施工してきた県営ため池等整備事業（一ノ目潟地区）による水路トンネル改修工事が今年三月に竣工を迎え竣工記念碑の除幕式を行いました。神事には事業主体の秋田地域振興局農村整備課の皆様、男鹿市の皆様、施工事業者の皆様にご参列いただきました。

竣工除幕式では組合員でもある地域の神主様にご協力いただきました。経験のある男鹿市内土地改良区の先輩職員の資料を参考にしながら司会の台本までお借りしました。また当土地改良区の役職員が総出で朝から準備をしました。かなり無理を言いつて事務用品の業者さんにまとめて物品をご準備いただきました。不備などところはご容赦いただきながらどうか神事を終えることができました。

参列いただいた皆様にはわざわざお運びいただきご難儀をありがとうございました。お天気に恵まれましたがとても暑い日でしたので、長い神事は大



変だったと思います。普段、ほとんどの時間を事務所にて一人で作業をしておりまして、淡々と時間が過ぎます。こうした行事のお手伝いをさせていただくことは私にとってもとても良い経験であるとともに楽しい時間でした。神事が終わった直会会場でたくさんの方々の笑顔に会えたことも何よりの喜びでした。

十二年間の長きにわたる事業。この事業を支え、竣工に導いてくださったすべての方々に、大きな事故もなく笑顔で終えられたことから感謝いたします。



## 会員だより

### 新理事長就任のお知らせ

次の方が新たに理事長に就任されました。  
○秋田市孫左衛門堰土地改良区(H28.4.18)  
理事長 鎌田 諄

## お知らせ

### 水土里ネットのスキルアップ研修会

**場 所** 水土里ネット秋田第1会議室

**開催日時** 9月9日(金) 13:30～

**対 象** 水土里ネット関係の皆様

**募集〆切** 8月10日(水)

※詳しくは別紙を同封しております。

## 連 合 会 日 誌

7月11日	平成28年度秋田県管理運営体制強化委員会幹事会	第2会議室
7月12日	平成28年度秋田県農業集落排水連絡協議会総会	第1会議室
7月15日	平成28年度小水力等発電導入技術力向上地方研修会(第1回)	秋田市
7月15日	平成28年度秋田県土地改良換地部会通常総会	秋田市
7月21日	平成28年度秋田県管理運営体制強化委員会	第1会議室
7月21日	平成28年度秋田県受益農地管理強化委員会	第1会議室

..... 今後の行事予定 .....

7月27日	秋田県立金足農業高等学校就業体験実習(インターンシップ)～29日	水土里ネット秋田
7月28日	全国農業集落排水事業推進協議会第27回通常総会	東京都
7月28日	第58回土地改良団体職員研修会(～29日)	東京都
8月19日	第2回正副会長会議	本会役員室
8月26日	第3回監事会、第2回理事会、役員会	第1会議室
9月29日	平成28年度全国土地改良施設管理事業推進協議会研究会(～30日)	秋田市
10月25日	第39回全国土地改良大会石川大会(10/24～27本会事業視察団体)	金沢市

- 平成28年11月2日(水) 午後1時00分
- 「湯沢文化会館」

## 第139回 秋田県種苗交換会

「農業農村整備フェア」を開催します!

農業の祭典『第139回秋田県種苗交換会』が、10月29日～11月4日まで湯沢市を会場に開催されます。期間中、水土里ネット秋田では農業農村整備事業のPRのため県内国営事務所、秋田県、秋田花まるっG・T推進協議会と共催で参考展示「農業農村整備フェア」を主会場の湯沢市総合体育館で開催します。1階廊下にて展示を行っておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。



昨年の農業農村整備フェアの様子

**期間:** 平成28年10月29日(土)～11月4日(金)

**場所:** 主会場(湯沢市総合体育館)

**内容:** 各種パネル・事業模型の展示、土地改良相談コーナー、カレンダー作成など



### 水土里レポーターによる写真投稿 vol.6

#### 蛇ヶ崎の大岩

水土里レポーター：稲川土地改良区 佐藤 公士

この蛇ヶ崎の大岩は岩城幹線用水路、通称：「与惣右エ門堰」の中流に位置している大岩です。約300年前から形を変えず田んぼを潤す水を運ぶ用水路の一部として地域の方々に知られています。今では当たり前のように流れている用水路ですが、与惣右エ門さんという方が一命をかけて掘り通した蛇ヶ崎の大岩、与惣右エ門堰があるからこそ、今こうして水を使える事に感謝です。



みどりちゃんの活用情報をお届けする新コーナーです!!



水土里ネット仙南 田中美智子

水土里ネット仙南では、多面的機能のほりにみどりちゃんを入れてくれました。

- Q** 今回の使用について
- A** みどりちゃんの可愛いイメージを固いイメージになりがちな組織とコラボさせて、より親近感が湧く様に工夫しました
- Q** 反応はどうか
- A** 昨年と違い、みんな目を引いて見てくれます

- Q** キャラクターを活用して印象に残ったことを教えてください
- A** 「キャラクターかわいいね」等地元の人から声をもらう事が増えました。中でも1番は「もっと活用すればいいのに」との声でした。今後も使用していきたいです



### リレー vol.6 感想文



いろいろな土地改良区のいろいろな情報を知ることができて毎回とても楽しみにしています。

秋田県三種町浜口土地改良区：  
管理係主任 清水千加子より

### 編集後記

今月初旬、総務企画部の研修があり、宮城県亘理町にある「舞台アグリイノベーション株式会社」の精米工場を見学してきました。仙台駅も入るほど大きな工場で、最新の機械を使って精米・保存を行っている工程に感動したのはもちろん、震災後の東北の復興を目指して工場の建設を行い、地元で活気を生み出しているということに感銘を受けました。復興の源は、やはり「地元の人に元気がある」ことだと思います。アイリスオーヤマグループでは亘理町と隣町で約70人の方々を雇用しているそうです。こういった企業が、安定した仕事を生み出してくれていることで、東北がだんだんと活気を取り戻しているのだと感じる事が出来た研修でした。(事業調整センター◆寺山)

